

中国、宋の時代。猿回しが飼っている猿に言った。「朝は3個だが、夕方は4個のトチの実をやるぞ」。猿は「あんまりじゃないか」と猛烈に怒った

困った猿回し。ではこうしようと持ち掛けた。「朝に4個、夕方3個でどうだろう」。猿は大いに喜んだという。「莊子」にみえる「朝三暮四」の故事である

過剰な精神科病床を大幅に削減する。と同時に、不要になった病棟は、病院経営の観点から福祉施設などへの転換を認める。精神障害者の長期入院減少に向けた厚生労働省のこの方針に疑問の声が上がっている

退院した患者の次に行く場所が、同じ病院内に新たにできた福祉施設というおかしな事態が起きるのでは。そんな懸念がある。病棟の看板を掛け替えただけ。これで退院とは、朝三暮四の故事と変わらないまやかしではないか

退院促進の環境づくりが進まぬ中、現実的という意見もある。しかし、地域で受け皿をつくる努力を怠っていては、根本的解決につながらないのは明らかだ

精神科病院に1年以上入院している患者は約20万人に上り、先進国では突出している。うち約3万人は認知症患者だ。退院しても行き場がなく病院から出られない社会的入院が多い。進行しているのは、偏見による隔離収容政策が取り返しのつかない悲劇を生んだハンセン病と同じ事態だ。